

情報提供資料
2026年6月1日

マーケット・レポート

金(ゴールド)価格の直近動向と今後の見通しについて

中東情勢で一時的調整も、金価格の長期上昇トレンド変わらず

- 金価格は高値から一時2割近く下落、足元は金利上昇で積極的な買いが手控えられ横ばい推移
- 1)インフレ耐性、2)米ドルに替わる安全資産、として金に対する中長期の投資需要は拡大

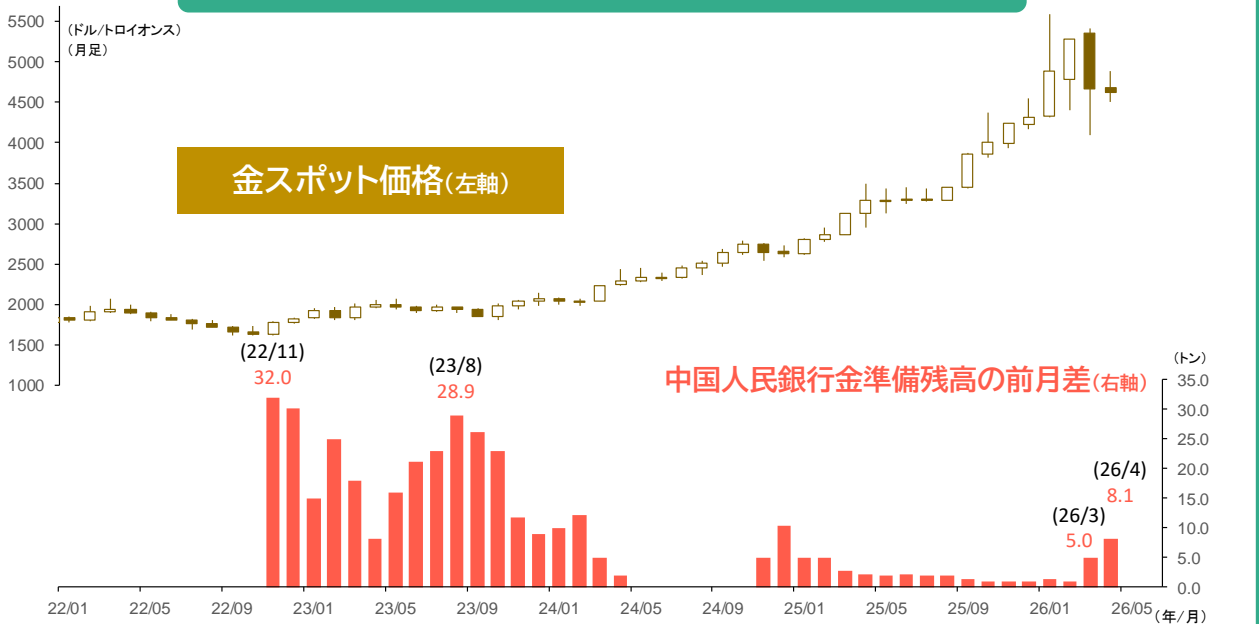
【最近の金価格の動きについて】

NY金スポット価格は、今年1月に5400ドル台(1トロイオンス、以下単位省略)まで上昇したあと、3月後半には一時4300ドル台まで下落しました。主な要因としては、1)2月末に中東情勢が急速に悪化し市場全体がリスクオフとなる中、直前まで大幅上昇していた金(2年間で約160%上昇)に対して短期的な投資資金が利益確定売りを膨らませたこと、2)トルコなど通貨安が進んだ一部の新興国が、保有する金を米ドルに換金して自国通貨の買い支えに動いたこと、が挙げられます。4月以降は、インフレ懸念で主要国の金利が急上昇する中、金利が付かない金に対して積極的な買いが手控えられ、4500ドル~4800ドルのレンジで横ばい推移が続いています。

【今後の見通しについて】

金価格は今後も長期的な上昇トレンドを続けると予想します。理由としては、1)インフレが進む中で通貨の価値が目減りを続ける一方、金はその希少性から相対的に資産価値が保たれ易いこと、2)世界情勢を巡る不確実性が高まる中でドルに替わる安全資産としての役割が期待されること、から金への投資需要が拡大すると考えられるためです。足元でも、世界の中央銀行は26年第1四半期に244トンを買越し(買い越しは22四半期連続)、中長期の買い需要は強いことが伺えます。特に代表格の中国人民銀行は価格が安い時に買い入れ量を増やす傾向があり、4月は24年以来最大規模の8.1トンを買越ししています。中東情勢の悪化で金価格の変動率が高まっていますが、前述した金の長期的な投資魅力は、中東情勢の混乱を通じて浮き彫りになっており、中央銀行の買いが金価格を下支えする中で、長期的な上昇トレンドは維持されると考えます。

金価格と中国人民銀行の金準備残高(前月差)の推移



【出所】ブルームバーグからの提供データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成

※当資料の使用に際し、最終ページの<当資料に関するご留意事項>を必ずご覧ください。

作成：運用戦略部 投資戦略グループ チーフ・ストラテジスト 下出 衛
エコノミスト 矢野 大輝

〈当資料に関するご留意事項〉

■当資料は、リそなアセットマネジメント株式会社が投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。■当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、リそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。なお、掲載されている見解は本資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。■投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および一体としてお渡す「目論見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。